

Retelling と Rewriting に重点を置いた 4 技能統合型指導法の成果と課題

—パーマー由来の語学教育研究所の指導法を参考に実践して—

平出 敏

要旨

パーマー由来の語学教育研究所の英語の指導法は三つ特徴がある。①題材や文法項目を導入するのに授業者が絵や写真を掲げ、生徒と英語でやりとりをする。②様々な手法で音読をする。③ペアの相手に自分の英語で題材の要約と感想を話す(retelling)。またそれらを書く(rewriting)。更に筆者は retelling や rewriting を発表させた。生徒の反応はアンケートによると約 87%が肯定している。

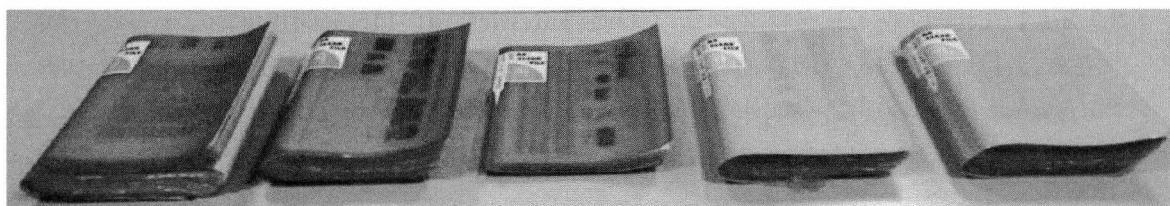
1. はじめに

筆者はパーマー由来の語学教育研究所の英語の指導法を実践してきた。4 技能を統合して伸ばすことができるすぐれた指導法なので紹介したい。

ロンドン大学講師ハロルド・E・パーマー(Harold E. Palmer)は 1923 年に文部省英語教授顧問になり「英語教授研究所」を設立した。これは後に一般財団法人語学教育研究所となり一世紀に渡り英語の指導法を研究している。次の三つの特徴がある。一つ目はパーマーのオーラルメソッドを取り入れ、授業者が題材や文法項目の内容に沿って絵や写真を提示し、英語でやり取りをすることによりコミュニケーション能力が育成できる。二つ目は様々な手法で音読をさせ、発音と読解力を向上させることができる。三つ目は絵や写真を配置したワークシート(picture sheet)を使い、ペアで題材の要約と感想を自分の英語で話すこと(retelling)と書くこと(rewriting)によって表現の能力が育成できる。

さらに筆者は retelling や rewriting を生徒の前で発表させることによって共有させた。課題が三つある。一つ目は題材について絵や写真を掲げながら生徒に英語で質問するので授業者が題材をよく理解し暗記しておく必要がある。二つ目は書かせるので添削する時間が必要になる。三つ目は絵や写真とワークシートが必要になる。筆者の場合は 1 学年分で約 1,200 枚になった。図 1 は 2 学年分の絵や写真とワークシートが入ったファイルである。

図 1 2 学年分の掲示用の絵や写真とワークシートの入ったファイルの写真



課題はあるものの4技能を統合して育成できるすぐれた指導法なので詳細を紹介したい。

2. パーマー由来の語学教育研究所の指導法を参考にした指導法の詳細

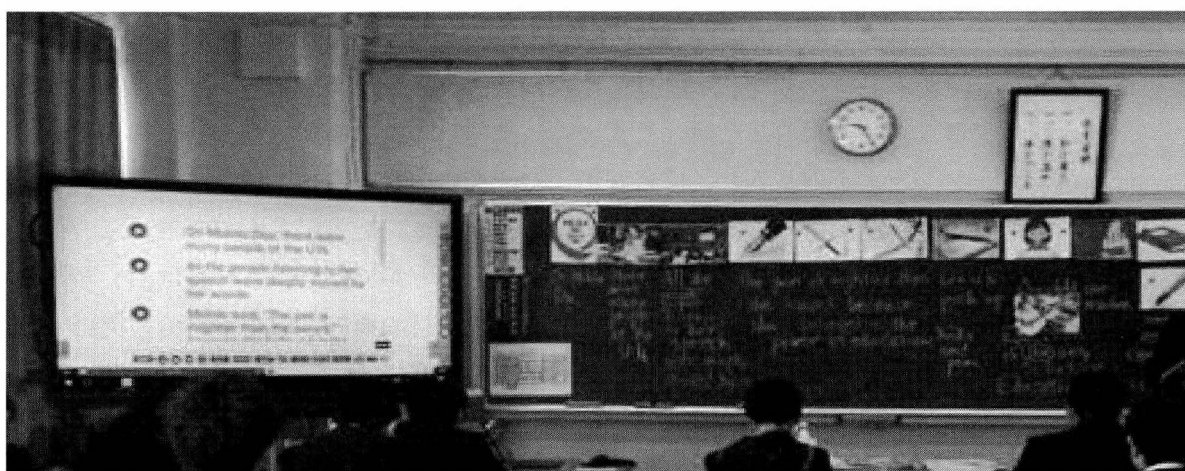
題材中心の指導法と文法事項中心の指導法に分けて紹介したい。

2.1 題材中心の指導法

2.1.1 絵や写真とワークシートの準備

目標は自分の英語で題材の要約と感想をワークシートの中の絵や写真を指し示しながら話すこと (retelling) と書くこと (rewriting) である。そのためには授業者が生徒に掲げて英語でやりとりするための絵や写真が必要になる。筆者は教科書の挿絵やインターネットの Google の画像検索で入手した。絵や写真は A4 版なので教室の後ろから見てもわかりやすいものや生徒が興味・関心を持ちやすいものを選ぶようにする。なお授業に使う絵や写真の著作権は 2016 年の改定で許諾されることになった。図 2 は題材中心の指導法のとときの教室前方の写真である。授業者が題材について絵や写真を掲げ、生徒と英語でやりとりしたあとマグネットで黒板に貼り、その下に題材から語句を抜粋して板書してある。写真の左はデジタル教科書の画面で教科書の本文を写している。

図 2 題材中心の指導法のとときの教室前方の写真



また黒板と同じように絵や写真を配置したワークシートが必要になる。

2.1.2 題材を中心とした授業の流れ

題材を中心とした授業の流れを詳述したい。50分授業で2時間かかる。

2.1.2.1 題材を中心とした授業1時間目(50分間)

2.1.2.1.1 オーラルインタラクション(Oral Interaction)(15分間程度)

筆者は主人公の絵や写真を使い背景を説明してからデジタル教科書で題材を聞かせた。その後絵や写真を掲げながら生徒と英語でやりとりをしながら題材の内容を導入した。絵や写真は都度マグネットで黒板に貼り題材から抜粋した語句を板書した。具体的には

次のようなやりとりをした。

例えば SUNSHINE の 3 年生の教科書 Program 9 section 4 では Malala Day のポスターを掲げて Malala was giving a speech at the United Nations. The U.N. called the day Malala Day. と言って絵をマグネットで貼りその下に On Malala Day と板書した。Please listen to the PC. と言ってデジタル教科書で本文の内容を聞かせた。

次に国連で Malala が演説をしている写真を掲げ What is Malala doing? と生徒に聞き生徒は She is giving a speech. と答えた。筆者は Very good. Who were deeply moved by Malala's words? と質問し生徒は All the people listening to her speech were. と答えた。Very good. と褒めた。

ここで生徒は教科書の本文をそのまま All the people listening to her speech were deeply moved by her words. と答えることもある。そのときは All the people listening to her speech were. がベストの答えであることを伝える。これは実用英語技能検定の二次面接試験等で満点が取れるようにするためである。

また All the people を listening to her speech が修飾していることにも触れる。また英語だけではわかりにくいところは意味の区切りごとに日本語で説明する。また deeply と moved は新出語句なので色チョークで板書しコーラスで発音練習をする。

2.1.2.1.2 新出語句の練習 (5 分間程度)

新出語句の紹介は前の活動で終わっているがまとめて復習する。筆者はデジタル教科書のフラッシュカードの機能を使い単語の意味を表示させて 5 回程度繰り返させている。デジタル教科書は大画面で発音と意味も提示されるのでわかりやすい。発音練習させるときに大画面の英単語をよく見て練習をするように言うといい。例えば arrive という単語を発音練習させるときに見ながら発音させると a-rr-ive と r がダブっていることに気が付きやすい。

2.1.2.1.3 コーラスでの音読練習 (Chorus Reading) (5 分間程度)

授業者がモデルを示しコーラスで生徒に音読練習をさせるのが望ましい。なお長い英文を繰り返せない生徒がいる。その場合は文の後ろから意味の区切りごとに区切って練習すると良い。例えば All the people /listening to her speech/ were deeply moved /by her words. の場合 by her words から繰り返させると良い。

2.1.2.1.4 個人の音読練習 (Buzz Reading) (5 分間程度)

全員を起立させ自分のペースで 4 回音読し読み終わったら座るように指示する。さらに座っても練習を続けるように指示する。理由が二つある。座っても練習させるのは練習量を増やすだけでなく読み終わった生徒が座ると読み終わっていない生徒が目立ち練習しにくくなるためである。また起立させるのは授業者が机間巡視をしたときに生徒の発音を聴きやすくするためである。なお生徒の発音を聴いていて課題があるときには授業者がモデルを示し繰り返させると良い。その際生徒の意欲を削がないために優しく丁寧に対応することが望ましい。

2.1.2.1.5 1人1文音読させて発音を確認 (Chain Reading) (5分間程度)

一人ひとりの発音を確認するために筆者は窓側の一番前の生徒から席順に1文ずつ音読させている。その発音に課題がある場合は優しく丁寧に指摘しモデルを示し繰り返させている。その後モデルを示し class と言ってコーラスで生徒全員に練習させている。これは他の生徒も同じような発音の課題を抱えている場合があるからである。

なお個人での活動をしていると読み終わった生徒が集中しないことがある。そこで事前に「会話はキャッチボールなので英語が話せるようになるためには少なくとも今まで習った英文がすぐに言えるレベルでなければならない。そのためには何度も練習する必要がある。他の人が読んでいるときも心の中で練習しよう。」と話しておく。また英語を話すときはイントネーション、リズム、アクセント、個々の発音、ポーズが大切なことも伝えておく。

2.1.2.1.6 個人での音読 (Individual Reading) (5分間程度)

筆者は名簿順に4人程度指名して全体の前で評価しながら音読をさせている。評価基準はイントネーション、アクセント、リズム、個々の発音、ポーズと内容を総合して表1の5段階で評価している。音読の後良い点を褒めている。

表1 音読の5段階評価基準

	評価項目	内容の正確さ
5	完璧に評価項目を満たしている	完璧に内容がわかる
4	ミスは2カ所以内	ほぼ内容がわかる
3	少しミスがある	だいたい内容がわかる
2	ミスが多い	少ししか内容伝わらない
1	かなりミスが多い	ほとんど内容が伝わらない

2.1.2.2 題材を中心とした授業2時間目 (50分間)

2.1.2.2.1 前時の復習 (20分間程度)

題材を中心として授業の1時間目の内容を簡単に復習する。オーラルインタラクション、新出語句の練習、コーラスでの音読練習を短縮して実施する。

2.1.2.2.2 ペアで題材の要約と感想を話すこと (Pair Retelling) (10分間程度)

題材の内容を示す絵や写真が配置され題材から抜粋した語句が書かれたたワークシートを生徒全員に配布する。考える時間を2分間とる。その後生徒はワークシートの中の絵や写真を指差しながらペアの相手に題材の要約と感想を話す (retelling)。

ところで題材の要約や感想を話すためには語彙が増えてこないといけないが筆者は中学1年生の始めから retelling に取り組ませた。題材に会話文が多いので例えば Yuki said, “ ”というような表現方法を教えた。1年生も he, she など習うと retelling しやすい。さらに retelling に必要な語彙は教科書に出ていなくても紹介した。授業者が黒板に貼られ

た絵や写真を指差しながらモデルを示すと良い。中学2、3年生では語彙が増え **retelling** しやすい。慣れないうちは教科書の本文を見ながら **retelling** させても良いが、何も見ないで絵や写真を指差しながら自分の英語で本文の要約と感想を言えるのが望ましい。

2.1.2.2.3 生徒の前で題材の要約と感想を話すこと (Class Retelling) (10 分間程度)

数名ずつ指名し黒板に貼ってある絵や写真を指差しながら生徒の前で題材の要約と感想を発表させることによって話す力を高めることができる。発表後授業者は生徒の良いところを褒めると良い。

2.1.2.2.4 題材の要約や感想を書くこと (rewriting) (10 分間程度)

題材の要約と感想を書く (rewriting)。具体例を示した方が書きやすい。また初め感想は I like ~. など簡単な表現が多いが語彙が増えると豊かになる。さらに何度も書かしているとミスが減ってくる。これは生徒が英文をよく観察するようになるためと思われる。

2.1.2.3 題材の要約や感想を書いた英文の活用

2.1.2.3.1 要約や感想を書いた英文の交換 (5 分間程度)

題材の要約と感想を書かせた後授業者が添削しランダムに配布し他の生徒の英文を読む機会を作る。次回書くときの参考になる。

2.1.2.3.2 要約や感想を書いた英文の発表 (5 分間程度)

さらに全体で共有させるために名簿順に数人に全体の前で読ませると良い。発表する力も伸ばすことができる。なお指名する生徒は事前に話しておくが良い。

2.2 文法項目中心の指導法

次に文法項目を中心とした指導法を紹介したい。基本はパターンプラクティス (pattern practice) である。

2.2.1 絵や写真とワークシートの準備

絵や写真を使って生徒と英語でやり取りしながら文法項目を導入するので絵や写真とペーパーで練習する時に使うワークシートが必要になる。

2.2.2 文法項目中心の指導法の授業の流れ

2.2.2.1 基本文の提示と説明 (10 分間程度)

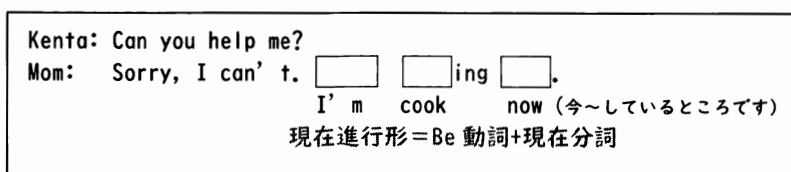
いきなり基本文を生徒に提示するのではなくその基本文が話されている状況を明確にしてから提示する。例えば SUNSHINE の 1 年生の教科書 Program 9 section 1 の Basic Dialog A: Can you help me? B: Sorry, I can't. I'm cooking now. という文を次のように導入する。

まず登場人物の一人である健太君の絵を掲げて生徒に Who is this boy? と聞く。生徒が He is Kenta. と答える。Very good. と褒めマグネットで健太君の絵を黒板に貼りその下に Kenta と書く。同じように宿題をしている男の子の絵を掲げて What does this boy do? と聞く。生徒が He does his homework. と答える。答えないときは「宿題をする」は do his homework だったね、などとヒントを出し、その生徒が答えられるように支援する。健太

君の絵と同様にマグネットで絵を黒板に貼り、do his homework と板書する。最後に健太君の母の絵を掲げ This is Kenta's Mom. と紹介し黒板にマグネットで貼りその下に Mom と板書する。次に This is a conversation between Kenta and his Mom. Please listen. と言ってデジタル教科書などで会話を聞かせる。このように健太君は宿題がわからなくてお母さんに手伝って欲しいと思って話しかけていることをはっきりさせてから基本文を聴かせる方が生徒に理解しやすい。

次に基本文の内容を確認する。例えば黒板に貼られた健太君の絵を授業者が指さしながら What does Kenta say to his Mom? と聞く。生徒は Can you help me? と答える。次に授業者は How does his Mom answer? と聞く。生徒は Sorry, I can't. I'm cooking now. と答える。黒板の健太君の絵等の右の横に図3のように板書し現在進行形について説明する。

図3 文法項目を導入するための板書例



2.2.2.2 オーラルインタラクション (Oral Interaction) (10 分間程度)

絵や写真を使って生徒と英語でやり取りをして現在進行形の文を練習させる。例えば次のような会話をする。

授業者がプロ野球のピッチャーがボールを投げようとしている写真を生徒に見せながら Please look at this man. What is he doing? と生徒に聞く。生徒は He is playing baseball. と答える。授業者は Very good. Please repeat after me. He is playing baseball. と言ってコーラスで2回生徒全員に練習させる。写真を黒板の一番下にマグネットで貼り写真の上にキーワードの he play baseball を板書する。

同様に別な絵や写真を使って現在進行形の文を作らせて練習させる。この時現在分詞形で putting, running, making などが出てきたところで ing をつけるときのルールを紹介する。

また新出語句が出てきたときはその場で意味を確認しコーラスで練習する。図4は文法項目中心の指導法のとときの教室前方の写真である。

2.2.2.3 新出語句の練習 (5 分間程度)

新出語句の紹介は前の活動で終わっているがまとめて復習する。筆者はデジタル教科書を使っている

2.2.2.4 コーラスでの練習 (5 分間程度)

黒板に貼った絵や写真を指差しながら授業者がモデルを示しコーラスで2回音読練習をさせている。次に絵だけを指差して言わせている。

図4 文法項目中心の指導法の際の教室前方の写真



2.2.2.5 列ごとに生徒の発音の確認 (Row Reading) (5分間～10分間程度)

生徒の発音を確認するために黒板に貼られた絵や写真を指し示しながら筆者は窓側から一列目の一番前から順に基本文を言わせている。その列の最後の人と言いつつ class と言って全員に言わせている。

2.2.2.6 ペアでの練習 (Pair Work) (5分間程度)

黒板と同じ配置で絵や写真と語句が書かれたワークシートを配布する。生徒はワークシートの中の絵や写真を指差しながらペアの相手に交替で基本文を言う。

2.2.2.7 練習した文を書くこと (5分間程度)

ペアで言った英文をワークシートに書かせる。授業者は集めて添削し返却する。

3. 生徒のアンケート結果

授業のそれぞれの活動を生徒がどのように捉えているか2020年1月14日東京都中野区立中野東中学校1年生82名にアンケートを通して調査した。

3.1 絵や写真を使ったオーラルインタラクション (Oral Interaction) について

図5からわかるように絵や写真を使った英語の勉強については90.2%の生徒が肯定している。生徒の感想は「英語だけではなく絵や写真があるのでとてもわかりやすい。続けてほしい。」「イメージができてわかりやすい。」「絵を使えば場面などが分かりやすく面白い。」「絵や写真が多すぎると黒板一杯になり読みづらい。」などがあつた。

3.2 自分の英語で題材の要約と感想を言う活動 (retelling) について

図6のようにペアの相手に題材の要約や感想を自分の英語で話す活動 (retelling) は81.7%が肯定している。生徒の感想は「話す練習になるのでとても役に立つ。英検の面接に役に立つ。」「外国人と話すときの練習になり良い。」「他の人と英語で交流できるので良い。」「相手に伝えるときの練習になるので良い。」などがあつた。

図5 絵や写真を使った英語の勉強について

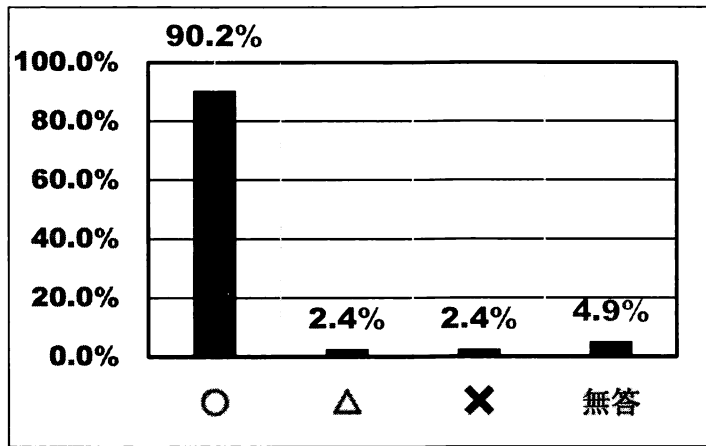


図6 ペアの相手に題材の要約や感想を自分の英語で話す活動 (retelling)

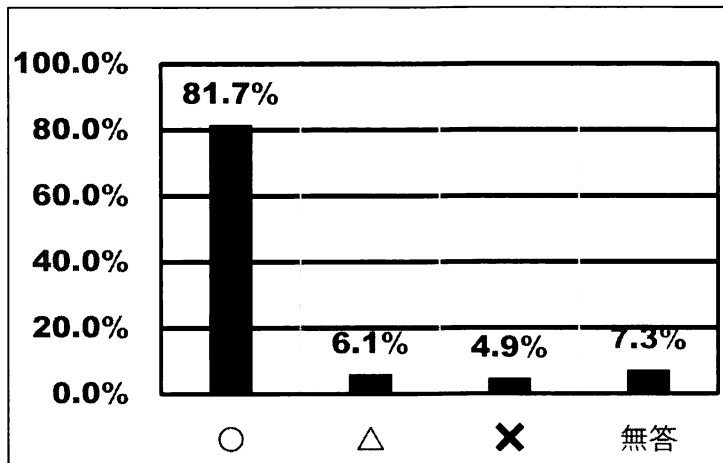
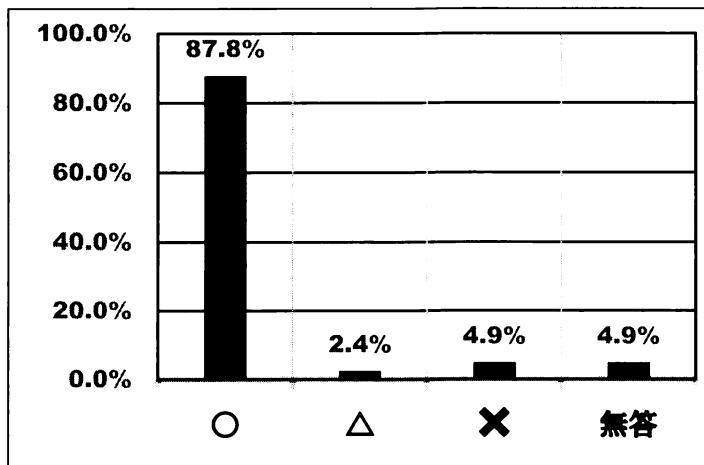


図7 題材の要約と感想を自分の英語で書く活動 (rewriting)



3.3 自分の英語で題材の要約と感想を書く活動（rewriting）について

図7のように題材の要約と感想を自分の英語で書く活動（rewriting）は87.8%が肯定している。生徒の感想は「書く練習になるので良い。」「英文の書き方がわかる。」「試験の時の筆記に役に立つ。」「先生からのアドバイスを書いてもらい役に立った。」「最初は難しかったがだんだん分かってきた。」「難しいけれど勉強になる。」などがあつた。

4. あとがき

パーマーに由来する語学教育研究所の指導法は4技能を統合して伸ばすことができるすぐれた指導法であり推奨したい。さらに改善するために三つの課題がある。一つ目は真性コミュニケーション活動が少ないことである。語学教育研究所の文法事項の指導法はパターンプラクティスで何度も繰り返すので文法事項が定着しやすいが生徒にとっては言わされている感じがある。そこでコミュニカティブ・アプローチに取り入れられているようなコミュニケーションに類似した事態を作り出して生徒同士に会話させると良い。例えばHow long have you lived in this town? For three years.という文法事項を学習したあとでペアの相手にHow long have you lived in this town?と聞いてみる。クラスの中を歩き回りHow long have you lived in this town?と聞いて誰が一番長く住んでいるか探してみるなどの活動を工夫すると良い。二つ目は同じ考えの教員による教材の共同開発が望まれる。題材や文法項目のワークシートと絵や写真を筆者の場合は1学年で約1,200枚作成した。二学年または三学年を担当することが多く膨大な量が必要になる。そこで同じ考えの人同士で分担できるとよい。三つ目はパーマーに由来する語学教育研究所の指導法の普及である。少人数指導が広まり2クラスを3つに分けて指導することが多い。授業者による差がでないようにということで学期ごとに少人数クラスの教員を変える例が多い。生徒にとっては学期ごとに指導法が変わってしまい定着しにくい。少人数指導クラスは同じ指導法で揃えれば良いが今でも訳読文法式に近い指導法や1時間に数個の言語活動をしていて教科書の本文はあまり扱わないような授業が横行している。

最後に本稿を通して指導法を見直す機会を与えてくださった東京都中野区立中野東中学校の校長先生始め生徒や教職員の皆様に感謝したい。

参考文献

- 大西泰斗, ポール・マクベイ. (2019). 『英文法パーフェクト講義 上』. NHK 出版.
- 大西泰斗, ポール・マクベイ. (2019). 『英文法パーフェクト講義 下』. NHK 出版.
- 小菅和也他. (2008). 『語研ブックレット2 指導手順再検討』. 語学教育研究所.
- 小菅和也他. (2011). 『語研ブックレット4 オーラル・ワーク再入門』. 語学教育研究所.
- 松畑熙一他. (2015). 『SUNSHINE ENGLISH COURSE 1』. 開隆堂出版株式会社.
- 松畑熙一他. (2015). 『SUNSHINE ENGLISH COURSE 2』. 開隆堂出版株式会社.